

# 令和3年度教育学研究科科目等履修生受講案内

## 1. 修学キャンパスについて

### (1) 柏原キャンパス

大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

近鉄大阪線「大阪教育大前駅」下車 徒歩約15分(※エスカレーター(上り専用), 階段あり)

※大学所定の手続きにより、車両での通学が可能です。

### (2) 天王寺キャンパス

大阪府大阪市南河堀町4-88

JR環状線「寺田町駅」下車 徒歩約5分

近鉄南大阪線「阿部野橋駅」, JR・大阪メトロ「天王寺駅」下車 徒歩約10分

※車両での通学はできません。公共交通機関での通学をお願いします。

## 2. 授業時間 下記のとおりです。(各キャンパス共通)

時限	授業時間(90分)
1	8:50~10:20
2	10:35~12:05
3	12:55~14:25
4	14:40~16:10
5	16:25~17:55
6	18:00~19:30
7	19:40~21:10

## 3. 令和3年度教育学研究科 開講科目一覧

### (1) 要相談科目について

備考欄に「要相談」とある科目は、特に高い専門性を必要とする科目です。

事前相談のない場合は受付できません。期日までに、以下の手順で、メールにて事前相談してください。

事前相談の結果は、メール受信後、1週間以内にご連絡いただいたメールアドレスに返信します。

結果によっては、受付できない場合がありますので、返信メールの内容を確認した後、検定料の振込及び出願書類を提出してください。

【事前相談期日】

第1次出願の場合…令和3年2月5日(金) 第2次出願の場合…令和3年7月16日(金)

【事前相談送付先E-mail】

[daigakuin@bur.osaka-kyoiku.ac.jp](mailto:daigakuin@bur.osaka-kyoiku.ac.jp)

【メール件名】

科目等履修生事前相談

【本文例】

氏名: 柏原 教子 電話番号: 080-XXXX-XXXX

受講を希望する科目: XXXX特論

受講を希望する理由(履修目的): △△の学習をさらに深めるため 等

受講にあたっての専門性(これまでの学習履歴等):

〇〇大学◆◆学部を平成XX年に卒業し、現在、□□で働いています 等

※「受講を希望する理由(履修目的)」及び「受講にあたっての専門性(これまでの学習履歴等)」は、できるだけ詳細に記載ください。

令和3年度の開講科目は新規科目のため、(2)科目一覧と合わせ、(3)令和3年度授業科目の概要を確認してください。

4月以降に詳細なシラバスが公開されますので、以下から確認してください。

大阪教育大学トップページ→シラバス検索(大教UNIPA)

「[ゲ](#)ゲストユーザー」をクリックすると、公開されているシラバスを閲覧することができます。

<https://cardinal.bur.osaka-kyoiku.ac.jp/up/faces/login/Com00501A.jsp>

## (2)科目一覧について

教育学研究科では、学期(セメスター)制で授業を開講しています。

学期(セメスター):前期(4月1日~9月30日),後期(10月1日~3月31日)

開講 キャンパス	科目区分		科目名	単位数	担当教員	開講期	曜日・時限	備考		
天王寺	専攻共通科目		教育イノベーション概論	2	藤田 修 安松 健	前期	水6	可		
			現代社会の動向と教育協働	2	出相 泰裕, 寺坂 明子 新崎 国広	前期	隔週土4・5	可		
			現代的教育研究方法演習	2	辻岡 強, 高嶽 裕樹, 榎木 泰介	後期	土3	可		
柏	国際	コース共通科目	JSLカリキュラムの理論と実践	2	米澤 千昌	前期	火2	要相談		
			国際関係論	2	馬 暁華	後期	月2	可		
			国際比較文化論	2	亀井 一	後期	木4	要相談		
	協働	領域 専 門 シ ス テ ム 開 発	日本型教育システムにおけるICT活用の方法	2	尾崎 拓郎	後期	火2	可		
			日本における教科の内容と指導法(理科)	2	石川 聡子	前期	月2	可		
			日本型教材の開発と授業デザイン(理科)	2	仲矢 史雄	後期	木3	可		
			生涯学習としての数理科学	2	町頭 義朗	前期	月3	可		
			生涯学習としての情報科学	2	守本 晃 望月 久稔	前期	水5	可		
			生涯学習としての自然科学(物理・化学分野)	2	辻岡 強, 喜綿 洋人 谷 敬太, 久保埜 公二	前期	金3	要相談		
			生涯学習としての自然科学(生命・地学分野)	2	鈴木 剛, 鶴澤 武俊 小西 啓之	前期	月5	可		
	教育 支 援	日本語	高度 化 育 理 目	日本語教育の理論と実践	2	榎引 祐希子 米澤 千昌	前期	月4	要相談	
				社会言語学特論	2	榎引 祐希子	後期	木2	要相談	
				日本語構造論	2	GINSBURG JASON ROBERT	後期	金4	要相談	
		高度 化 育 理 目	対 照 言 語 学 科 目	外国語と日本語の対照研究Ⅰ(英語)	2	松本 マスミ	前期	火5	要相談	
				外国語と日本語の対照研究Ⅱ(中国語)	2	中野 知洋	前期	木4	要相談	
				外国語と日本語の対照研究Ⅲ(仏語)	2	井上 直子	前期	木4	要相談	
				外国語と日本語の対照研究Ⅳ(独語)	2	赤木 登代	前期	金3	要相談	
		原 ス 科 目	高度 化 育 理 目	国 語 教 育 分 野	現代文教育の理論と実践	2	石橋 紀俊	後期	月3	要相談
					古文教育の理論と実践	2	小野 恭靖	後期	木1	要相談
					漢文教育の理論と実践	2	佐藤 一好	後期	月5	要相談
	領域 高 度 化 育 理 目		社 会 分 野 教 育	現代社会教育の理論と実践	2	高山 新	後期	木3	要相談	
				歴史教育の理論と実践	2	渡邊 昭子	後期	木3	要相談	
			芸 術 ・ 音 楽 分 野 教 育	芸術文化教育の理論と実践	2	滝 一郎	後期	火3	要相談	
				音楽文化教育の理論と実践	2	卜田 隆嗣	後期	月4	要相談	
	専 門 化 育 理 目		英 語 分 野 教 育	英米言語文化教育の理論と実践	2	Brown Robert Sanborn	後期	水2	要相談	
				外国語教育の理論と実践	2	松本 マスミ	後期	火5	要相談	

開講 キャンパス	科目区分	科目名	単位数	担当教員	開講期	曜日・時限	備考
天 王 寺	教 育 フ ァ シ ョ ン コ ー ス 共 通 科 目	社会に開かれた教育課程の実践研究	2	佐久間 敦史	前期	火7	可
		学習支援特論	2	未定	後期	月7	可
	教育 イ ン フ ォ ー メ ー シ ョ ン 開 発 領 域	教育ポートフォリオとデータ	2	寺嶋 浩介(兼任)	前期	火6	要相談
		学修評価とデータ	2	庭山 和貴(兼任)	後期	水7	可
		人工知能概論	2	藤田 修	後期	火6	要相談
		データ解析のための数学概論	2	町頭 義朗, 森岡 達史 芦野 隆一, 守本 晃 平木 彰	前期	木6	要相談
		先端技術・データ活用演習	2	安松 健	後期	木7	可
		先端技術の教育展開と教育データ分析演習	2	藤田 修	後期	火7	要相談
	地域 教 育 ・ 芸 術 支 援 領 域	生涯学習推進行政の動向	2	未定	後期	月6	可
		生涯学習施設・職員特論	2	高嶽 裕樹	前期	木6	可
		地域教育とキャリア形成	2	安達 智子	後期	金6	可
		識字・成人基礎教育実践研究	2	岡田 耕治	後期	木6	可
	健康・ 安全 教育 高 度 化 領 域 専 門 科 目	地域・学校における健康科学教育の理論と方法I	2	松本 鉄也	前期	金7	要相談
		地域・学校における健康科学教育の理論と方法II	2	永井 由美子	前期	木6	要相談
		地域・学校における健康科学教育の理論と方法III	2	榎木 泰介	前期	木7	要相談
		地域・学校における生活環境学教育の理論と方法I	2	碓田 智子	前期	月7	要相談
		地域・学校における生活環境学教育の理論と方法II	2	西川 章江	前期	月6	要相談
		地域・学校における安全教育の理論と方法I	2	藤田 大輔	前期	月6	要相談
		地域・学校における安全教育の理論と方法II	2	豊沢 純子	前期	火6	要相談
		地域・学校における安全教育の理論と方法III	2	後藤 健介	前期	水7	要相談
地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法I		2	生田 泰志	前期	火6	要相談	
地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法II		2	吉田 雅行	前期	月7	要相談	
地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法III		2	千住 真智子	前期	月6	要相談	

### (3) 令和3年度授業科目の概要 (科目等履修用)

(新規開講のため変更することがあります。詳細は4月以降、シラバスでご確認ください。)

(教育学研究科 高度教育支援開発専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専攻共通科目 (天王寺)	教育イノベーション 概論	<p>Society5.0社会を支えるAIやICT、ビッグデータなどの先端技術があらゆる産業や社会生活に取り入れられ、それによる超スマート社会が大きな変革として訪れようとしている。教育現場においては、これら先端技術をいかに活用して教育・学習効果を最大化するか、様々な教育課題を解決できるかが、課題として挙げられる。</p> <p>本授業では、AI、ICT等の教育政策、海外における学びのあり方の現状、AI等の技術を活用した教育ソフトウェア開発の動向などの講義や議論を通じて、教育現場においてAIやICT等を利活用するために必要な基礎的知識、及び現場で活用できるデータサイエンスの入門知識を習得する。</p>
	現代社会の動向と教育協働	<p>現代社会の動向について把握することを通じて、現代社会における教育協働の意義・必要性について理解する。さらに、教育協働に関わる理論や政策、実践について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(出相泰裕／7回) 知識基盤社会、Society5.0、SDGs、グローバル化、地方創生、人生100年時代、格差社会、男女共同参画(子育て・家庭の実情も含めて)、新しい公共などのキーワードを絡めて、変容する現代社会全般の動向について学び、そこから(生涯)教育・学習及び教育協働の重要性が高まっていることを理解する。</p> <p>(寺坂明子／2回) 現代社会における子どもの動向を発達心理学の最新の知見を組み入れながら考察するとともに、現代社会における子ども支援について理解する。</p> <p>(新崎国広／6回) 教育協働に関わる教育政策について取り上げ、続いて、教育協働論や教育福祉論といった本専攻に関わる理論についても理解を深める。また行政・専門機関間の協働のみならず、インフォーマルな社会資源(NPO・ボランティア等)との協働、並びにSSWやCSWも含めた福祉・心理分野といった他職種との協働に関わる実践について取り上げ、様々な形の教育協働の実際について理解する。</p>
	現代的教育研究方法 演習	<p>Society5.0社会は、多様な人々が高度に情報化された社会の中で多様な価値を求め、実現していく社会である。そのような社会で価値を生み出すには、様々なバックグラウンドを有する人々が分野をまたいで学び、研究を進めていく必要がある。</p> <p>本授業では、複数分野における研究の進め方や手法を学びそれらの融合を図ることで、大学院修了後も様々な課題に直面した際に主体的に分析、考察、解決ができるような汎用的な研究能力を培うことを目標とし、複数分野の教員の指導の下、それぞれの分野における研究手法(研究計画立案、調査・分析方法、文献や資料の収集方法、及び論文の書き方)について学ぶ。具体的には、講義と演習により、量的調査研究・質的調査研究・事例研究・比較研究・文献研究に関わる手法の基礎的部分の習得をめざす。その中で、それらの手法を使った研究論文を講読し、実際にどのように研究計画の展開と論文作成を行うのかについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(辻岡強・高嶽裕樹・榎木泰介／3回)(共同) 全体のオリエンテーション、分野融合研究の重要性の講義、演習結果発表会等を行う。</p> <p>(辻岡強／4回) 研究成果を社会に向けて発表する意義、研究計画の立案、論文の構成方法(特にその研究の意義づけと先行文献の調査方針)について、講義と演習を交えて実施する。</p> <p>(高嶽裕樹／4回) 研究を進める上で必要となる、書籍・雑誌論文の探し方、統計等のデータの見つけ方、文献の管理方法、アンケートなどを用いたデータ収集の方法について、講義と演習を交えて実施する。</p> <p>(榎木泰介／4回) 研究を具体的にすすめるにあたり必要となる、倫理審査、実験・調査の方法、データの科学的な分析方法、学術論文における図表等について、講義と演習を交えて実施する。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
国際協働教育コース科目（柏原）	コース共通科目  JSLカリキュラムの理論と実践	<p>日本国内では、言語的、文化的に多様な背景を持つ児童生徒の数が増えており、教育現場ではそのような児童生徒に対応できる人材が求められている。</p> <p>本授業では、バイリンガル教育や年少者日本語教育に関する理論、国内外での教育実践例を学び、これらの観点から、日本国内の日本語指導が必要な児童生徒が抱える課題を捉え直す。</p> <p>そして、言語的、文化的に多様な背景を持つ子どもたちの教室での学習、成長を支える効果的な支援のあり方について議論し、子どもたちの多様性を考慮しながら学習上の課題を解決する方策を見出すことができる分析力と実践力を身につけることを目指す。</p> <p>授業では、講義だけでなく、留学生と日本人等学生がグループになって指導案の作成練習やディスカッションを行う等、教育現場で必要とされる「協働」による活動も積極的に取り入れる。</p>
	国際関係論	<p>20世紀の世界では、経済のグローバル化が進行するなかで、戦争・民族紛争・テロが絶えない。</p> <p>本講義は、20世紀前半の国際関係史を理解することで現代社会の国際紛争の原因を探る。特にアメリカ合衆国と東アジアの国際関係の展開過程を中心に、ヒトの国際移動、イメージ、メディア、映画表現などのさまざまな角度から考察する。アメリカ合衆国と東アジアとの文化接触・摩擦の歴史的過程を総合的に分析することにより、現代社会に存在するさまざまな人種・民族・宗教などの文化的諸価値が、いかにして公平で平和的に共存できるかを考える。留学生と日本人等学生との議論を通じて、グローバル社会に必要な視野および思考力・判断力とは何かを学習する。</p>
	国際比較文化論	<p>本授業では、ポスト・コロニアル論、世界文学論といった近年の研究成果を参照しつつ、翻訳の文学的、文化的意味を考察する。また、翻訳という観点から、文化論、文学論に潜むナショナリズムを批判的に検討する。</p> <p>言語がその国特有の文化の基盤をなしているという見方は、今日に至るまで広く受け入れられている。古典文学は、個人的な才能によって生みだされた作品であると同時に、国民の共有財産でもある。翻訳は、原典を読むための便宜的な作業にすぎず、原典を正確に理解するためには、原語で読むべきだとされる。このような文学観に立つかぎり、翻訳は周辺の意味しかもちえない。しかし、まさに近代国家の生成において、本質的な役割を演じた翻訳があり、ドイツにおけるルター聖書の翻訳、江戸時代末期における蘭学といった具体的な事例に即して考える。授業は、講義を中心に進めるが、随時、留学生、日本人等学生それぞれの文化観をふまえた発言を求める。</p>
日本型教育システム開発領域専門科目	日本型教育システムにおけるICT活用の方法	<p>情報機器の急速な発展により、従来の視聴覚教育からタブレット端末や電子黒板を活用した教育の授業実践へと、授業を取り巻く情報環境は大きく変化してきた。</p> <p>そこで本講義では、現代社会における日本の初等中等教育課程の授業を中心とする学校活動において、2020年代を見越して、各教科の授業実践を高度化するためにはどのようにICTを活用することができるのか、学習者にとって効果的な利用の方法は何かなどについて探究する。また、それぞれの教科について、今後どのようにICTの活用を進めて行くべきなのか、様々な国でも可能なICT活用とはどうあるべきなのか、グループ学習を交えながら学んでいく。</p>
	日本における教科の内容と指導法（理科）	<p>日本の理科教育の特徴をレッスンスタディや国際学力調査PISAテストの科学的リテラシーの結果などから理解するとともに、模擬授業やデジタル教科書の活用、探究活動の分析などの実践経験を通して考察する。また、近年、理科教育のトレンドであるSTEM教育の教材開発にグループで取り組みながら、教科等横断的な教育内容についての理解を深め、国際的にも通用するような理科の指導法とはどのようなものであるかを考える。</p>
	日本型教材の開発と授業デザイン（理科）	<p>日本の理科教育で使用されている学習教材および実験教材について歴史的経緯を学び、実際に体験することを通じて、次世代の理科教材とはどのようなものであるべきか、また国際的に通用するような教材とはどのようなものであるべきかを考え、開発に結びつけていく。</p> <p>授業デザインについては、教科書のレイアウトと学習内容の対応について理解を深め、ICTやデジタル教材を実際に活用した研究授業を行い、各国の教育現場で通用する実践力を習得する。</p>
	生涯学習としての数理科学	<p>日本における数理科学教育の成果として、教育産業のみならず、一般企業で働いている人たちの中にも数学を趣味として学習している人が少なからずいる。また、幼児や高齢者の知的好奇心を伸ばす方法として、数理パズルがあげられる。</p> <p>本講義では、幼児や小学生、そして高齢者が興味を持つような数理パズルに触れるとともに、先端で研究されている数理科学の内容にも踏み込み、各国で生涯学習として使えるような数理科学の課題や、そこへの向き合い方について学習する。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
国際協働教育コース科目（柏原）  日本型教育システム開発領域専門科目	生涯学習としての情報科学	<p>情報通信技術は、急速に発展し続けている。便利になる反面、一定程度のリテラシーを理解していないと犯罪に巻き込まれる可能性もあり、生涯にわたり学習する必要がある。</p> <p>本講義では、Virtual box 上でOSや基本ソフトウェアなどの環境を構築し、Python、GNU Octave、Scilab などの無料言語を各自の PC にインストールしてプログラミングに触れることにより、将来にわたって、新しい情報技術を躊躇せず取り込むことの重要性を学ぶ。（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（守本晃／8回） Octaveを用いたプログラミングを講義するとともに、Scilabをインストールし、Octaveとの比較を行う。</p> <p>（望月久稔／7回） Virtual box、OS(Linux Ubuntu)をインストールし、Linux 環境を整えるとともに、Pythonなどの各種言語を用いたプログラミングの講義を行う。</p>
	生涯学習としての自然科学（物理・化学分野）	<p>世界でも競争力を有する日本の工業材料や工業製品の成り立ち、及び動作原理を理解するうえで礎となる自然科学の法則を理解するため、物理と化学の知識は重要である。また、科学技術を応用した製品は時代とともに高機能化し、その理解も常にアップデートする必要がある。</p> <p>本講義では、世界各国で生涯学習の対象となりうる物理・化学の知識、及び最先端の科学・技術について学習する。（オムニバス形式／全15回）</p> <p>（辻岡強／4回） 世界の工業製品の開発の歴史と日本の工業製品生産技術の発展、及び現代の主要製品における動作原理と物理学との関係、物理学の技術的な応用について、専門的な解説を行う。</p> <p>（喜綿洋人／3回） 物理の基本法則から身近な自然現象が如何にして説明されるのかを具体例を用いて学習していく。特に光に関する現象について学習する。</p> <p>（谷敬太／4回） 世界の工業製品の開発の歴史と日本の工業製品生産技術の発展、及び現代の主要製品における有機化学や高分子化学との関係について、専門的な解説を行う。</p> <p>（久保埜公二／4回） 工業製品・材料における錯体化学との関係や、物理化学と分析化学の技術的な応用について、専門的な解説を行う。</p>
	生涯学習としての自然科学（生命・地学分野）	<p>日本の理科教育の成果として、社会人も広く自然科学の教養を身につけているが、近年の高度な技術的進歩に伴い、最新の科学・技術を学び続け、自然科学分野の知識の幅を広げることは豊かな生活を送る上で重要である。</p> <p>本講義では、各国で生涯学習として使えるような生命科学や地学分野の最先端の知識や課題について学習する。（オムニバス形式／全15回）</p> <p>（鈴木剛／5回） 生命科学分野のうち、特に遺伝子組換えとゲノム編集に関して、科学・技術の最新情報を専門的立場から解説し、日本・アジアを中心とした地域での生涯学習における利用を視野に入れた指導を行う。</p> <p>（鶴澤武俊／5回） 生命科学分野のうち、特に微生物の基礎と応用に関して、科学・技術の最新情報を専門的立場から解説し、日本・アジアを中心とした地域での生涯学習における利用を視野に入れた指導を行う。</p> <p>（小西啓之／5回） 地学分野のうち、特に自然災害をもたらす現象の科学的基礎と応用に関して、科学・技術の最新情報を専門的立場から解説し、日本・アジアを中心とした地域での生涯学習における利用を視野に入れた指導を行う。</p>

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	
国際協働教育コース科目（柏原）	日本語教育支援高度化領域専門科目	日本語教育理解高度化科目 日本語教育の理論と実践	<p>本授業は、国内外の日本語教育事情を踏まえ、目的に応じたコースデザインや授業計画、教材の分析や開発に関わる理論を習得し、教育現場での実践に役立つ知識とスキルの獲得を目的とする。また、日本語教育や異文化理解に関わる授業の分析力や教師としての自己点検能力も身につける。さらに、日本語教育史への理解を深め、現代における日本語教育の社会的意義および責任について考察することを企図する。 （オムニバス形式／全15回）</p> <p>（榎引祐希子／7回） 国内外の現場のニーズに応じて柔軟にコースデザインや授業計画を考案し、実践に活かせる日本語教育教材の開発を担える教育力を育むために、第二言語としての日本語に関する言語学的な知識や地域差・社会差も含めた多様な日本文化に対する理解を深める。</p> <p>（米澤千昌／6回） 国内外の多様な日本語教育現場について、具体的な事例を基に学習者のニーズや指導方法、その背景にある理論について考察する。また、日本語教育を複言語主義の視点（学習者が有する複数の言語の力の1つとしての日本語）として捉え、日本語教育の今後の発展について議論する。</p> <p>（榎引祐希子・米澤千昌／2回）（共同） 今までの講義の内容を踏まえ、異なる文化的背景を持つ受講生同士で日本語教育をめぐる複数の課題についてグループディスカッションを実施し、課題解決に向けて必要とされる協働力を養う。</p>	
			社会言語学特論	<p>本授業の目的は、言語と社会の関係について理解するための理論と方法（フィールドワーク）を習得することである。具体的には、グローバル化が進展する一方で唯一無二のローカル性を有する【大阪】をフィールドに、「留学生の母語を用いた言語表示」「異文化間のコミュニケーション摩擦」「日本語の地域語（方言）の動態」といったテーマについて、授業で学んだ種々のフィールドワーク（インタビュー、アンケート、参与観察など）を実施する。 授業の前半では社会言語学の理論と方法を学び、後半は受講生が大阪でおこなったフィールドワークの成果を発表し、多文化共生の実現・持続を可能にする方略について検討する。さらに、検討内容を母国・出身地に当てはめた場合、どのような課題があり、どのような解決方法がありえるのかという点を考察し、実践的に言語と社会の問題を解決しようとする能力を醸成する。</p>
			日本語構造論	<p>本授業では、生成文法の基礎を学びながら、日本語の統語構造について学ぶ。学習内容は以下の通りである。：生成文法の基礎、品詞の特徴、格助詞の役割、主な句構造、日本語の語順とかき混ぜ現象、樹形図の書き方と構造的関係、肯定文の構造、従属節の構造、疑問文の構造。また、日本語の構造についての知識をどのように教育へ応用できるのかについて学ぶ。本授業は日本語の構造に興味のある学生を対象に行い、「留学生と日本人等学生の協働」に重点を置く。</p>
	対照言語学理解高度化科目	外国語と日本語の対照研究Ⅰ（英語）	<p>本講義では、日本語と英語の様々な側面を比較することにより、2つの言語をよりよく理解し、留学生と日本人等学生の協働も交えながら両言語の運用能力の向上に应用することを旨とすると同時に、英語のデータや文献を精読し、言語学的な分析方法の基礎も学ぶ。音声学・音韻論では母音と子音や音のつながり方を比較し、形態論では、派生、複合、品詞転換、主要部の位置などについて比較し、統語論では、文の構造、構文、動詞の分類、主要部の位置などについて比較し、意味論では、語の意味関係、構造と意味、意味役割、動詞の意味などについて比較し、語用論では、発話力、ていねいさなどについて比較する。</p>	
		外国語と日本語の対照研究Ⅱ（中国語）	<p>中国における好調な出版事情を反映して、日本人作家による文学作品の翻訳もまた盛んである。特に人気があるのは、川端康成等、日本の伝統文化を表現したと見なされる、いわゆる純文学の作家であり、『伊豆の踊子』『雪国』等を中心に、複数の中国語訳が刊行されている。そうした状況を受けて中国の大学院では、韓待桁・葉涓渠・高慧勤といった複数の翻訳者による翻訳と作品の原文との比較対照が盛んに行われている。 そこで本授業では、中国語に翻訳された文学作品を取り上げ、原作との比較を行う。その際、先行研究で主流となっている比喩等の表現、翻訳者と原作者とのジェンダー的差異等といった視点に加え、ジュネットの物語論等をよりどころとして、話法・時制といった文体的特徴に着目し、中国語と日本語との差異を考察する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容
国際協働教育コース科目（柏原）	日本語教育支援高度化領域専門科目	対照言語学理解高度化科目	
		外国語と日本語の対照研究Ⅲ（仏語）	フランスでは、フランス語を外国人に教えるプログラムにフランス人が非インド＝ヨーロッパ系の言語を学ぶことが組み込まれている。この点で、フランス語と日本語という全く異なる言語体系の言葉を比較しつつ学ぶことは重要である。 本講義では、その一つとしてフランス語における指示詞と定冠詞の用い方と日本語の「この・その・あの」による指示との比較を取り上げる。まず日本語の指示詞について確認した上で、フランス語の指示詞と定冠詞の使い方を学ぶ。さらに留学生の母語との比較を行う。次に村上春樹、夏目漱石、森鷗外の小説における指示詞の使い方に注目し、フランス語訳を参照して「コ・ソ・ア」がどのように訳されているのかを調べる。さらに、フランスからの学部留学生の協力を得つつ、留学生が「コ・ソ・ア」をどのように学ぶのか、また日本人は指示詞と定冠詞をどのように学ぶのかを確認しながら、外国語を学ぶ過程をたどる。
		外国語と日本語の対照研究Ⅳ（独語）	今日のドイツにおいては、人口の約25パーセント（2018年のデータ）を移民の背景をもつ人々が占めている。さらに年齢別で見ると、移民の背景を持つ者の3人に1人は18歳未満の若年層で、学校教育を必要としている。ゆえに、学校は移民・難民の「ドイツ社会への統合」において大きな責任を担っている。 実際に、学校現場では移民の背景をもつ子どもたちに、「生活言語としてのドイツ語」に加えて、学校での学びの土台となる「教育言語としてのドイツ語」を習得させるため、「第2言語としてのドイツ語（Deutsch als Zweite Sprache, DAZ）」プログラムを提供している。 日本でも昨今外国にルーツを持つ子どもたちが急速に増えており、学校現場はその対応を早急に求められている。そこで、学校における「第2言語としての日本語」教育の示唆とすべく、ドイツにおける「DAZ」の歴史的経緯、現状、今後の課題を取り上げ、考察する。さらに、外国人児童生徒の日本語習得の際に生じる課題を、留学生の母語、文化が及ぼす影響という観点から検討する。
	教科理解高度化科目	国語教育分野	
		現代文教育の理論と実践	小・中・高の国語教科書を研究対象として取り上げ、収録された教材分析を通して、小説、詩、韻文、評論、随筆等の様々なジャンルの日本語表現を横断しながら、言語表現の可能性を探究するとともに、多様で柔軟な読解力や分析力を養う。 さらには、学習指導要領との連関、教科書編集の意図、学習の手引きとして掲げられている発問や課題の意図等を検証することを通して、国語教科書をメタ認知的観点からクリティカルに捉え直し、あるべき現代文教育の方向性や方策を探究する。 また、留学生受講者が母国で受けてきた国語教育との比較を通して、比較教育学的な観点からの考察も行う。加えて、JSLカリキュラムの考え方を概観し、日本語を第二言語として学ぶ学習者の視点から現代文教育における有効な日本語支援のあり方を模索する。
		古文教育の理論と実践	留学生並びにこれまで日本古典文学にかかわる機会のなかった学生が、古文を読解するために不可欠な基礎力として、敬語を中心とした古典文法の知識が挙げられる。古典文法は単に知識として暗記するより、基本的な古文を教材として用いながら実践的に習得することが望ましい。したがって、本講義では和歌・歌謡などの韻文教材を読解し、その作品にとってもっともふさわしい現代語訳を模索することにより、古典文法の実践的な習得を目指す。その過程で古典文法を中心とした古文教育の理論を学ぶとともに、その教授法についても身につけることが可能となる。 なお、具体的な韻文教材としては『古今和歌集』『新古今和歌集』『和漢朗詠集』『百人一首』『梁塵秘抄』『閑吟集』『宗安小歌集』『隆達節歌謡』『山家鳥虫歌』などから古典文法を学ぶに適した秀歌を選ぶこととする。また、受講者のアクティブラーニングを実現するため、授業は演習形式を基本的とし、それをもとに講評を加える講義形式とする。
漢文教育の理論と実践	急速にグローバル化の進む現在、漢文教育の中核を占める教材の選定にも一定の工夫が必要である。その一つの試みとして、本授業では、明治の漢文教科書に注目し、現代の教材として再利用できる作品の発掘を目指したい。明治の漢文教科書には、中国古典中心の最近の教科書とは異なり、内容的に「和」「漢」「洋」の三者が混在し、極めてバラエティに富んでいる。例えば、「和」では紫式部の伝記（徳川光圀『大日本史』）、「漢」では義獣譚（馮景「書十義事」）、「洋」ではコンプスの伝記（安積信「閻龍伝」）など、魅力的な作品が多い。そこで、加藤國安・木村淳編『明治漢文教科書集成』全13巻（不二出版）所収の教科書教材について、日本人等学生（和）と留学生（漢・洋）とが協働してそれらの出典を調査し、訓読・語注・現代語訳を施す作業を通して、明治の漢文教材の可能性を模索する。		



科目区分		授業科目の名称	講義等の内容		
国際協働教育コース科目（柏原）	日本語教育支援高度化領域専門科目	教科理解高度化科目	社会科学教育分野		
			現代社会教育の理論と実践	私たちの生活の豊かさをささえる重要な空間である地域と地域社会に注目し、フィールドワークの手法も使用しながら、そこで生じている変化について考察する。地域は人々にとって不可欠の生活空間としてサステナビリティが求められるが、現在地域と地域社会はグローバル化や自然環境問題だけではなく、人口減少や産業構造の変化によっても大きく影響を受けており、多くの課題を抱えている。本授業では、現在、地域と地域社会で生起されている課題について、これまでの公共の中心的担い手であった行政だけではなく、すでに多種多様な役割を果たしている市民や組織の協働に注目し、未来を構想する新しい公共性を手がかりとして検討していく。	
			歴史教育の理論と実践	世界の諸地域における歴史叙述の変遷と歴史教育の変遷を概観する。具体的には、各地域における世界史についての文献を再検討する。史学史に寄与してきたおもな著作を調査し、史学史を議論し、かつ、文献に表れる歴史のパターンを議論する。そのうえで、複数地域について、おもな歴史教科書や歴史教育政策の史料を調査して、歴史教育の歴史を検討し、歴史研究がたどってきた歴史との相互関連性を議論し、比較対照する。史資料の調査を通じて、文書やデジタル化された史料の利用法や文献の読解など、歴史を調査し、教育する際に必要な技術を学ぶ。広域を対象とした歴史叙述ならびに歴史教育を歴史的に考えることにより、グローバルかつ長期的な視点から歴史を分析し論じる力を養う。	
			芸術・音楽教育分野	芸術文化教育の理論と実践	世界と日本の社会と文化を理解するために、現代における芸術を通じた教育の理論と実践について、文化現象・社会構造・価値意識という三方面から研究する。芸術文化において異文化受容・適応や異文化コミュニケーションが広く求められている今日では、教育の目的が他者への「理解」にとどまらず、自己に対する「反省」や社会における「共生」に向かわなくてはならない。本演習の受講者は各々、異文化間教育・社会文化能力・普遍的価値理念という観点から厳選された古今東西の美学・芸術学上の古典的なテキストを講読して、必要に応じて美術や音楽のAV資料を用いながら発表を行い、参加者全員による多文化領域を横断する対話と討議を通じて、コミュニケーションの言語運用能力と対人関係能力を養成することになる。
			音楽文化教育の理論と実践	現生人類は単一の生物種として同一の発声器官をもちつつも、コイサン諸語にみられる音素としての吸着音、イヌイトやアイヌの人びとの声遊びにみられる吸気音の操作、アルタイ山脈周辺の人びとの喉歌における倍音の操作など、実にさまざまな発声とその組織化の方法を築きあげてきた。また、アルメニアなどのヤジーディーやボルネオ島のブナンといった人びとにみられるように、歌唱行動と発話行動は必ずしも単純に対立的・排他的な発声行動の類型というわけではない。こうした多様な声の文化に対する理解を深めるために、民族誌的記述の批判的読解から文化人類学の理論と方法を検討しつつ、学習・伝承のありかたについて考察する。そのうえで、個々の受講者の文化的背景に基づきつつ、多様な発声を実現する身体技法の習得過程の実践とそれをめぐるディスカッションを通して、民族音楽学的異文化理解の実践としての多音楽性獲得の可能性とその方法に関する考察を深める。	
			英語教育分野	英米言語文化教育の理論と実践	his class is a teaching practicum. It is an opportunity for aspiring teachers to practice, to hone their craft in front of their peers. It is an intensive teaching practicum for international students and Japanese students alike. Students teach; the class discusses this teaching. Depending upon the number of students, each student will teach every week (except Week 1, Week 8, and the final class). The student-teacher must tell the class: 1. topic & level (i.e., JH School, Year 2; High School, Year 3; Juku, etc.) 2. prepare a one-paragraph explanation of the goals of the lesson. Each student-teacher should teach for approximately 10-15 minutes. Following that, the student-teach is evaluated. The class will discuss what the student-teacher did, and will fill out an evaluation form and hand that form to the teacher (Brown). <和訳> 本講義では、教育実習の実践を留学生と日本人等学生の協働により、集中的に行う。意欲的な教師として練習し、仲間の前で自分の技術を磨く。毎回受講生が授業を行った後、残りの受講生はその授業について議論する。受講者数によるが、各生徒が毎週教える（1週目、8週目、最終日を除く）。 教師役の学生は、次の点を生徒役の学生に伝える。 1. 内容とレベル（中学校2年生、高校3年生、塾など） 2. レッソンの目標を1パラグラフで説明する。 教師役の学生は、約10～15分間授業を行い、その授業が評価される。教師役の生徒による授業の内容について話し合い、評価フォームに記入し、そのフォームを担当教員に渡す。
			外国語教育の理論と実践	本講義では、留学生と日本人等学生の協働により、外国語教育の理論と言語学の理論について学び、それらで得た知見を実際の外国語教育と外国語学習の実践に応用する方法を提案する。まず、現在の日本の学校における外国語授業の基盤となる学習指導要領を確認する。その上で、言語理論を英語教育に応用した研究を精読し議論する。内容は、音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、認知言語学、SLAと多岐にわたる。さらに、ICTとe-Learningの外国語教育についての実践例を学ぶ。最終的には、以上から得た知見を活用し、英語のReading、Listening、Writing、Speakingの4技能の向上のための効果的な教育方法、学習方法を発表し、議論する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
教育フアンリテーションコース科目（天王寺）	社会に開かれた教育課程の実践研究	<p>現在、地域学校協働が推進されているが、その中で社会に開かれた教育課程が提唱されており、「総合的な学習の時間」を軸としたカリキュラム・マネジメントに、地域と協働した企画・実践は重要である。</p> <p>そこで本授業では「総合的な学習の時間」などの授業実践を学び、社会に開かれた教育課程に向けての地域が積極的に協働するカリキュラムの開発力、マネジメント力の向上を図ることを目標とし、学習指導要領についての解説・理解に加え、今日的に学校が求める教育・授業の視点及び、「総合的な学習」の実践記録・実践事例や授業ビデオの分析などを通じて、地域が協働する教育課程の検討を行う。</p>
	学習支援特論	<p>学習への動機づけ理論について概観し、人の学習意欲の向上手法について考え、学習への動機づけ研究に基づいた学習支援手法の習得を目指す。また、現代社会における子どもへの支援・指導法に加えて、社会人経験を持つ成人学習者の特性についても学び、成人を対象とした効果的な教育方法・学習支援の在り様について考え、生涯発達論と成人学習論を通じた成人学習者の理解を深める。授業では理論に加え、実際に学習支援に関わる職員をゲストティーチャーとして呼び、支援の実践についても学ぶ。</p>
教育イノベーション開発領域専門科目	教育ポートフォリオとデータ	<p>デジタル技術の目覚ましい進展により、学校現場では、児童生徒の学びの記録をデータとして蓄積する教育ポートフォリオの活用が広がりつつある状況である。</p> <p>本授業では、前半は、授業におけるICT活用場面の理解、教育データの種類と特性、教育ポートフォリオを活用した学習と評価の関連性についての専門的知識を学習する。後半は、教育ポートフォリオに集積する教育データの活用により、個人の能力や適性に応じて個別最適化された学びや、効果的な学習指導に向けた実践的な考察を行う。これにより、児童生徒の学びの記録や日常の活用内容の見える化を通じて、効果的な学びや指導方法をデザインするための基盤的知識・技能を習得する。</p>
	学修評価とデータ	<p>学校現場における現状の評価方法について、先端技術の活用により、効果的な評価手法を導き出すことが可能になることが想定できる。</p> <p>本授業では、学校経営の概説とこれに関わるデータの種類を学び、次のステップとして現状の評価方法の問題点を洗い出し、先端技術の活用により理想とする評価手法を導き出すための考察を行う。これにより、学校現場における現状の評価方法について理解し、先端技術を活用して効果的な評価方法へと改善を図るための知識・技能を習得する。</p>
	人工知能概論	<p>人工知能の基礎的概念と各種技術の応用分野について理解するとともに、歴史的な発展経過や社会に与える影響など、現状の課題と将来動向に関する洞察力を養うことを目標とし、人間の知的能力を人工的な計算機が自律的に自動処理するための様々な数理的な仕組みやアルゴリズムとして、パターン認識、機械学習、ニューラルネットワークなどの基礎を解説し、基本的演習を通して人工知能の長所・短所・限界を具体的に把握させる。また、各種分野におけるデータ科学への応用とその効果や今後の課題について考察する。</p> <p>「先端技術の教育展開と教育データ分析演習とセット」とし、2コマ連続で行う。</p>
	データ解析のための数学概論	<p>データ解析を行うために必要な数学として、統計数学に加えて微分積分学、線型代数学、ベクトル解析、関数解析、微分幾何学、離散数学などが挙げられる。本講義では、平均、分散、相関係数、回帰直線、回帰分析などを理解することを目標とし、そのために使われている多変数関数の微分積分学や線型代数学を主に学ぶとともに、最適化に必要な最小2乗法や線形計画法なども習得する。必要に応じて、ベクトル解析や関数解析、微分幾何学、離散数学とりわけグラフ理論にも踏み込む。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (町頭義朗／3回) 平均、分散、共分散、相関係数など、統計数学の基礎や、推定・検定の考え方について講義する。 (森岡達史／3回) 数列の極限值や関数が連続であることなど、おもに微分積分学や解析学の基礎について講義する。 (芦野隆一／3回) 無限次元のベクトル空間について講義する。主な内容は、直交関数系、フーリエ級数、フーリエ変換などである。 (守本晃／3回) 線型または非線型の最適化問題や、最適化問題の分類について講義する。 (平木彰／3回) ベクトルを用いたデータ解析の考察や、行列を用いた考察、グラフを用いた考察など、線型代数学や離散数学とデータ解析の関係について講義する。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
教育ファシリテーションコース科目（天王寺）	先端技術・データ活用演習	<p>教育現場においては、AIやICT、ビッグデータなどの先端技術をいかに活用するか、または、どのようなデータを獲得して、いかに分析・検証すれば教育・学習効果が最大化するかが課題である。</p> <p>本講義では、企業や社会生活において実装化されているAIやICT等の先端技術や、データ収集と分析を、先進事例やグッドプラクティスに即しながら実践的演習と考察を行う。本演習を通じて、企業等でのデータ分析とマーケティング的視点、先端ICTの動向を理解し、これをベースに、教育現場に適用するための知識と技能を習得する。</p>
	先端技術の教育展開と教育データ分析演習	<p>「先端技術・データ活用演習」における実践経験をベースに、AI、ICT等の先端技術を活用した学習プログラムの実証や新たな教室空間の提案、教育データの集積・分析を通じた課題解決など、教育現場の最適化に向けた実践演習を行う。本演習を通じて、先端技術を自在に駆使し、教育に関するデータを集積・分析しながら、各種教育課題に対して最適な解決策を提示するための知識・技能を習得する。</p> <p>「人工知能概論とセット」とし、2コマ連続で行う。</p>
高度化領域・専門科目 地域教育・芸術支援人材	生涯学習推進行政の動向	<p>地域学校協働や地方創生、セーフティーネットとしての学習支援など、生涯学習推進行政の様々な課題について学びつつ、様々な分野・組織と協働（ネットワーク型行政）して問題の解決にあたっていく必要性について理解を深めることを目標とし、中央教育審議会答申などから、なぜ今日、生涯学習推進が先進工業国において重要な政策課題になっているのか、また生涯学習推進の中でどういった分野がどうして重要視されているのかについて学ぶ。さらに社会教育に焦点をあて、特定の自治体をケーススタディの対象として取り上げ、生涯学習推進計画や具体的施策、教育委員会の事務評価などを共同で分析し、評価する。</p>
	生涯学習施設・職員特論	<p>社会の動向及び生涯学習推進政策の動向を踏まえたうえで、公民館、図書館、博物館などの生涯学習施設及びそこで働く職員の役割について理解を深めつつ、優れた実践事例について考察することを目標とする。</p> <p>生涯学習は人々の生きがいがいくつりの他に、様々な機能を期待されている。例えば、学校支援や地域の活性化に向けての人材養成、格差社会を防ぐためのセーフティーネット、地域の絆づくりなどがそれに含まれる。そこで、実際に現場となる生涯学習施設及び施設職員に求められる職務及び資質能力とは何かについて考えるとともに、様々な施設で実施されている実践例について学ぶ。</p>
	地域教育とキャリア形成	<p>地域教育の理解と教育支援・教育協働人材としてのキャリア形成を目標とし、受講者が自らの専門領域を核にして、地域社会や教育現場の課題を解決し、価値創造へと導くファシリテーターとして現場を主導していくためのキャリア開発を行う。具体的には、これまでの自身のキャリアを振り返り、省察を深めながら、自己効力とモチベーション、人的ネットワークの構築と維持、問題の把握、リーダーシップ、多職種間連携、男女共同参画等を理解し、地域連携や地域教育の先導者にも認められる力量を養う。授業の前半部分では、これまでのキャリア形成と学びについて振り返りを行うとともに、各テーマを題材とした文献輪読を行う。後半部分では、事例研究の発表とディスカッションを行いながら問題把握と解決の視点を養い、各自のキャリア・デザインへと展開させる。</p>
	識字・成人基礎教育実践研究	<p>不登校児童生徒が増え、外国人の渡日者が増えている。そのもとで、識字・日本語学習や、人権学習などを必要とする人が大幅に増加し、それに対する対応が求められている。</p> <p>本授業では、成人の識字・日本語学習を支援するために必要な知識・スキル・価値観などを習得することを目標とし、そのような人々に関わる現状認識、政策の推移、教育現場の実践と課題などを学ぶ。しきじ・にほんご天王寺をはじめ現場に向きつつ課題を考え、また、成人基礎教育等について、諸外国の動きも参考に学ぶ。</p>
健康領域・安全専門科目 高度化	地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅰ	<p>健康管理、健康増進に関する基本的知識を学び、健康の維持増進、保健管理を具体的に実践できるようになることを目標とし、地域・学校における健康課題、特に、健康診断や健康相談の保健管理活動等の現状と問題点について概説する。近年、子どもの抱える健康課題が多様化する中で、養護教諭、学校医、学校薬剤師による専門知識に基づいた効果的な保健指導が重要であり、それらの協働を軸とした健康科学教育について学ぶ。主に学校の健康に関する諸問題を地域でいかに考え、連携・協働して対応すべきかについて学習する。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
教育ファシリテーションコース科目（天王寺）	地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅱ	<p>環境保健学をベースとして最適な環境とは何かということテーマに、特に物理的・化学的環境因子（温度、湿度、空気、水、放射線、化学物質など）が人間の健康に及ぼす影響について考究する。さらに、地域住民や学校保健の対象である児童生徒が健康を保持増進できる環境づくりについて、行政や企業の側から検討を行い、ヘルスポモーションの理論も取り入れる。</p> <p>本講義では、院生との意見交換ができる機会も設け、双方向の講義を目指す。</p>
	地域・学校における健康科学教育の理論と方法Ⅲ	<p>今後の社会では、ヒトの心身における健康について教え、学ぶ機会が重要であり、それは地域や学校を対象として創造・提供される。</p> <p>本講義では、健康科学教育に関する研究活動を中心に、その意義について、特に健康生理学の分野から理解を深める。個人の心身の健康を維持するために、地域や学校で、どのような取組が可能であるか、またその効果をどのように検証するかについて、当該分野の学術研究やデータを読み解きながら、自然科学的な観点から考察する。</p>
	地域・学校における生活環境学教育の理論と方法Ⅰ	<p>超高齢社会、家族構成やライフスタイルの変化、国際化など、社会の進展とともに、住まいを取り巻く生活環境は大きく変化しつつある。</p> <p>本授業では、地域・学校における生活環境学にかかわって、住生活、住宅計画、まちづくり、居住文化などを中心に、住環境分野に関わる研究理論について知識を深め、現代社会における住まいやまちづくりの課題を考察する。また、地域や学校における生活環境教育の理論を住環境学の面から考えるとともに、安心・安全な住まいづくり・まちづくりを一般市民や児童生徒に伝えるための手法について、演習やディスカッション等も取り入れながら検討する。</p>
	地域・学校における生活環境学教育の理論と方法Ⅱ	<p>地域・学校における食生活環境に関連した諸問題（健康や環境問題、食品のリスクや食の安全性）を科学的に探究する。その中で、科学的根拠に基づいた情報の収集力と分析力を身につけ、問題を解決するために必要な論理的思考法を修得する。そして、各自の研究課題の発展につなげることを目標とする。本授業は、基本的には講義形式であるが、食生活環境学の学習の理解を深めるために、一部グループディスカッションを行う。</p>
	地域・学校における安全教育の理論と方法Ⅰ	<p>「安全（Safety）」とは、身体的傷害や心理的危害、また物質的危害などにつながるような様々な危険や状態が、個人や地域社会が健康でよい状態であることが保たれるように統制された状態であると考えられている。</p> <p>そこで本授業では、まず「安全」が個人や地域社会が個々の願望を達成する上で必要な日々の生活に不可欠の資源であることについて概説し、その後、家庭・学校・地域・職域における「安全」に関する教育活動の理論と先行研究の成果と内容について受講者間で分担して発表し、得られた知見を基盤とする実効性のある新たな安全教育の構築と展開について考察する。</p>
	地域・学校における安全教育の理論と方法Ⅱ	<p>地域・学校・職場における安全教育の問題を取り上げ、心理学の理論的観点から各問題の解決方法を探るとともに、安全教育の実践を行うための基礎的な方法について学ぶことを目標とする。</p> <p>本授業では、始めに授業担当者が過去の実践の問題と関連する理論について概説する。次に受講者が各安全領域（生活、交通、災害）における研究と実践の事例について分担発表を行い、問題点を話し合う。最後に具体的な安全教育場面を想定し、問題を解決するための実践方法に関する具体的な提案にまとめ、成果を発表して共有する。</p>
	地域・学校における安全教育の理論と方法Ⅲ	<p>安全に関する種々の「情報」から見た地域や学校における様々な諸問題について、その現状と課題、解決策を考えていく。取り扱う内容は、学校安全に関わる生活安全、災害安全、交通安全を主なテーマとし、最新の統計データや研究成果を用いて、学校が置かれている現状を把握するとともに、その傾向を捉え、どのような対応策が必要であるかを検討する。また、これら学校の諸問題を地域でどのように考え、連携・協働して対応すべきかについても考察する。</p>
	地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅰ	<p>東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定以来、日本ではこれまで以上にスポーツへの関心が高まってきた。その一方で、子どもの体力低下や積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化、あるいは体育嫌いやスポーツ嫌いなど、子どものスポーツ活動に関する課題は未だに解決されていない。学校や地域において、子ども達がスポーツをする機会を持ち、スポーツを通して健康で楽しく豊かな人生を歩んでいくことは重要である。そのためにもスポーツ科学の成果を有効に活用することが望まれる。</p> <p>本講義では、スポーツを取り巻く環境及びその重要性を概観し、スポーツ実践に関わる諸問題について見分を広め、特に、スポーツ科学の活用の実態について学習し理解を深めることを目標とし、スポーツをより楽しく効果的に実践できるようにするために、スポーツ科学の研究成果がスポーツ実践の現場においてどのように活用されているかについて実践事例の紹介を中心に進めていく。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
教育ファシリテーションコース科目（天王寺） 健康・安全教育高度化領域専門科目	地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅱ	<p>東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定以来、日本ではこれまで以上にスポーツへの関心が高まってきた。その一方で、子どもの体力低下や積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化、あるいは体育嫌いやスポーツ嫌いなど、子どものスポーツ活動に関する課題は未だに解決されていない。学校や地域において、子ども達がスポーツをする機会を持ち、スポーツを通して健康で楽しく豊かな人生を歩んでいくことは重要である。そのためにもスポーツパフォーマンスを高めるための理論と実践は、有効に活用されなければならない。</p> <p>本講義では、スポーツを取り巻く環境及びその重要性を概観し、スポーツ実践に関わる諸問題について見分を広め、スポーツパフォーマンスの向上に関する理論と実践について学習し理解を深めることを目標とする。特にボールゲームのパフォーマンスを高めるために必要な考え方を理解するために、これまでのスポーツパフォーマンスを向上させるためのトレーニングの歴史、さらにその歴史を踏まえた現状を認識するため、関係する諸科学の成果を紹介しながら授業を進める。</p>
	地域・学校におけるスポーツ実践の理論と方法Ⅲ	<p>東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定以来、日本ではこれまで以上にスポーツへの関心が高まってきた。その一方で、子どもの体力低下や積極的にスポーツをする子どもとそうでない子どもの二極化、あるいは体育嫌いやスポーツ嫌いなど、子どものスポーツ活動に関する課題は未だに解決されていない。学校や地域において、子ども達がスポーツをする機会を持ち、スポーツを通して健康で楽しく豊かな人生を歩んでいくことは重要である。そのためにもスポーツやダンスを同種の人間の身体運動文化であると捉え、新たな身体表現に関する考え方を有効に活用することが望まれる。</p> <p>本講義では、スポーツを取り巻く環境及びその重要性を概観し、スポーツ実践に関わる諸問題について見分を広め、特に、人間の身体表現の見方、考え方について学習し、理解を深める。人間の身体運動文化であるスポーツ・武道・舞踊に見られる身体表現を舞踊学的分野の研究及び現象学的視点からの研究を踏まえ探究する。</p>